

8.9～10.31 狭山闘争の勝利！

異議審闘争を貫徹し、

日刊 労働千葉

80.8.9
No. 504

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）四三二二七二〇七

支配階級の軍事大国化・侵略と差別・抑圧攻撃と・対決する労働運動を！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
獄中一七年、部落民であるが故に、無実の石川一雄氏は、権力の不法不当な2・7再審却下
Ⅱ身体的抹殺攻撃の下で千葉刑務所に与らわれの身となっている。
激動の八〇年代、支配階級は、ホウハイとしてわき上る狭山差別裁判糾弾・無実の石川一雄
氏奪還の全国的な闘いの爆発に対し、石川氏をあくまでも獄中につなぎとめようとしている。
われわれは、狭山闘争を三里塚闘争とならぶ全国闘争として、8・9～10・31異議審闘争を
貫徹し、無実の石川一雄氏奪還を勝ちとるために奮闘しよう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

狭山闘争Ⅱ部落解放闘争の爆発に恐怖する支配階級

「狭山事件」において、部落出身であるというただ一点の理由をもって、石川一雄氏は犯人としてデッチ上げられ、一七年余の長期にわたる獄中生活を強制されている。

しかし、石川氏は、一貫して無実を叫びつづけ権力に対する怒りにもえた獄中闘争を貫徹している。

この石川氏の闘いに応える狭山差別裁判糾弾・石川一雄氏奪還の闘いは、全国闘争としてもえ拡がり、権力・支配階級をゆるがす闘いとして発展してきた。そして、この狭山闘争Ⅱ部落解放闘争は、日本労働運動の戦闘的發展に大きな影響を与える闘いとして貫徹されているのである。

激動の八〇年代、こうした狭山闘争の全人民的な爆発と発展を恐れる支配階級・権力は、三年前の8・9最高裁上告棄却攻撃、本年の2・7高裁再審却下攻撃などあくまでも石川氏有罪Ⅱ狭山闘争圧殺の攻撃をかけている。

一貫して狭山闘争に敵対する 動労「本部」反動分子！

われわれは、狭山闘争勝利へむけた闘いを発展させるために、その闘いの敵対・妨害者である「本部」反動分子を断罪しなければならない。それは、八〇年代階級闘争の基軸である三里塚と狭山闘争の結合に一貫して反対し、「狭山闘争はプロレタリアートの運動とは無縁」（七三年十二月「本部」革マル分子、元青年部長大江発言）などと

差別的言辞をあびせて狭山闘争を侮辱してきたのは、他ならぬ「本部」反動分子である。

しかも、狭山闘争が、全国闘争として高揚するやいなや、七八年10・31狭山中央闘争に対し「水本謀略運動」を持ちこみ、「狭山事件も水本事件と同じ権力犯罪だ」として政治利用主義的に介入し、狭山闘争の解体を策し、以後一貫して差別主義的に対応してきたのである。

われわれは、かかる「本部」反動分子の差別主義、政治利用主義にもとづく狭山闘争介入策動を粉碎していかねばならない。

新たな決意をもって狭山闘争勝利へ！

「私は、部落民なるが故に、国家権力の生贄にされそうな実態をつかんで以来、部落解放のためにも『権力犯罪を満天下に明らかにする迄は血の一滴まで闘い抜く』ことを学んだのであります。」（七八・五・二三）

われわれは、8・9上告棄却三周年にあたり、この石川一雄氏の獄中からのアピールをわがものとして、狭山闘争勝利へむけて決意も新たに決起しようではないか。

さらに、われわれは、この狭山闘争と結合し、支配階級の体制危機にかられた軍事大国化攻撃と反動攻撃の頂点をなす三里塚二期着工攻撃の具体的攻撃としての本格パイプライン工事強行、五六・三ジェット燃料貨車輸送延長攻撃粉碎の闘いに総力をあげて決起しよう。